

大学史展示室 特集展4

思い出の学生生活

会 期 平成18年4月2日(日)～6月30日(金)

場 所 駒澤大学禅文化歴史博物館2階 大学史展示室

主 幹 駒澤大学禅文化歴史博物館大学史資料室

駒澤大学で過ごした学生時代には、勉学に励んだ日々、スポーツや課外活動に没頭した日々など、さまざまと思います。

今回は、同窓生の方々からご寄贈いただきました学生服、ボタン、教科書、ノート、日用品など、なつかしい学生時代の思い出の品々を展示し、戦前から昭和40年代までの学生生活を振り返りたいと思います。

当時、学生であった卒業生の方々にはなつかしい品々ではないでしょうか。また、現役生の方には、現在の自分たちの生活との違いを探してみてください。



学帽と制服



バックル



学生かばん

I 帽子と制服

現在、駒澤大学の学生たちの服装は、さまざまなファッションスタイルが見られます。昭和40年代頃までは、学生服と学帽をかぶる男子学生がいました。

このコーナーでは、なつかしい学生の服装に関する資料を展示します。

【展示資料】

I-1 学帽と制服

学帽は、戦前からあった。この学帽は、駒大の学帽、校章などを制作していた庵原帽子店から寄贈された。制服は、昭和19（1944）年、専門部高等師範科地理科を卒業した榊原克己氏が使用していた制服。

I-2 ボタン・校章とバックル

ボタン・校章とバックル ボタン・校章とその型は、庵原帽子店から寄贈いただいた。型は実際に使用していた大変貴重な資料。バックルは、昭和37（1962）年、文学部地理歴史学科を卒業した菊地正義氏が学生時代に使用していた。

II 学寮と勉強

現在は、学生の寄宿する学寮としては、竹友寮と野球部が使用する祖師谷寮の2つとなりました。以前には、一般学生の寄宿する多くの学寮がありました。学寮での生活は、1部屋に3～4人の学生が共同生活をしていました。

このコーナーでは、昭和30年代の学寮の勉強空間を再現してみました。卒業生にはなつかしく、現役生にはめずらしい空間ではないでしょうか。

【展示資料】

II-1 学生かばん

昭和19（1944）年、専門部高等師範科地理科を卒業した榊原克己氏が学生時代に使用していたかばん。

II-2 教科書とノート

昭和37（1962）年、商経学部（現経済学部）卒の小山渡志雄氏が学生時代に使用していた教科書とノート。1冊のノートは、駒澤大学のマークが入っている。

II-3 電気スタンド

昭和19（1944）年、専門部地理歴史科を卒業した榊原克己氏が学生時代に使用していたスタンド。



昭和30年代 下宿での勉強
（愛知県 森哲成氏提供）



電気スタンド
教科書とノート